

20分でわかる

Purely Functional

Data Structures

k.inaba (<http://www.kmonos.net/>)

Apr. 4, 2010

あらすじ

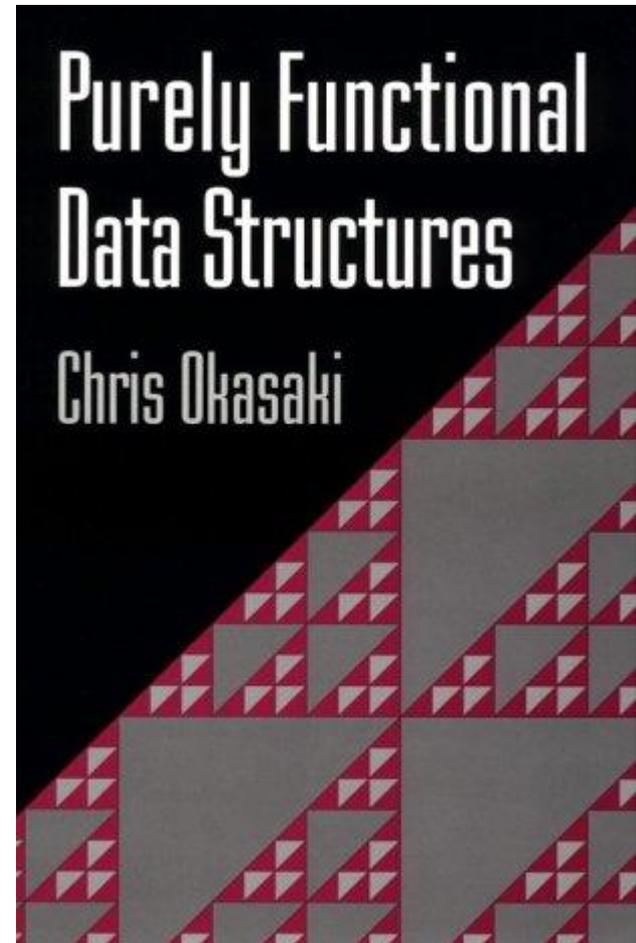
フ…上等だ…
オレも一つ言っておく
ことがある



イミュータブル
データ構造は
遅い
ような気が
していたが
別にそんなことは
なかったぜ！

Immutable Object だけで作るデータ構造

この本の
内容を
全速力で
布教する



お題：キュー (Queue)

- FIFO (First-In First-Out)
- `pushBack(e)` でデータ `e` を入れる
- `popFront()` で取り出せる
- 入れた順に出てくる
- 以上



Immutable Object でない
打倒すべき目標

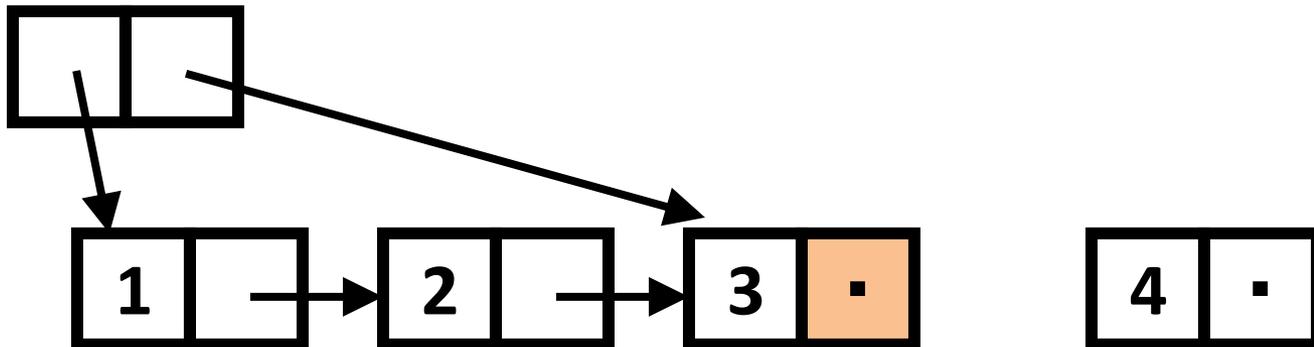
破壊的キュー

手続き型でよくある

```
interface Queue<E>
{
    void pushBack(E e);
    E    popFront();
}
```

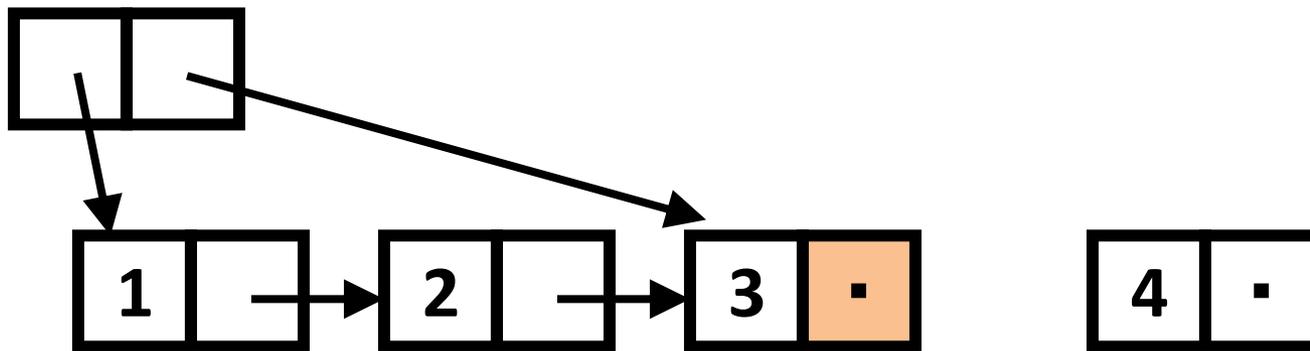
よくある実装

```
class HakaiQueue<E> implements Queue<E> {  
    class Cell { E e; Cell next; }  
    Cell fst, last;  
  
    void pushBack(E e)  
        {last=last.next=new Cell(e,null);}  
    E popFront()  
        {E e=fst.e; fst=fst.next; return e;}  
}
```



破壊的キューの特徴

- **Mutable Object** を使用
 - リスト末尾を指すポインタをもっておき
末尾のセルを `pushBack` 時に **書換**



- Persistent でない
 - 操作前の状態をとっておく
には全コピーしかない

```
HakaiQueue<E> q = 略;  
HakaiQueue<E> p = q;  
q.pushBack(e); //pも変化!
```

- `pushBack`, `popFront` の最悪実行時間は $O(1)$

計算量

Ephemeral (儚い)
使い方での計算量

(比較対象)
破壊的

2リスト

銀行家

実時間

詳しくは
あとで

儚

A

$O(1)$

Amortized(償却)計算量

W

$O(1)$

Worst-Case(最悪)計算量

永

A

n/a

Persistent (永続的な)
使い方での計算量

W

n/a



Immutable な実装

2リストキュー

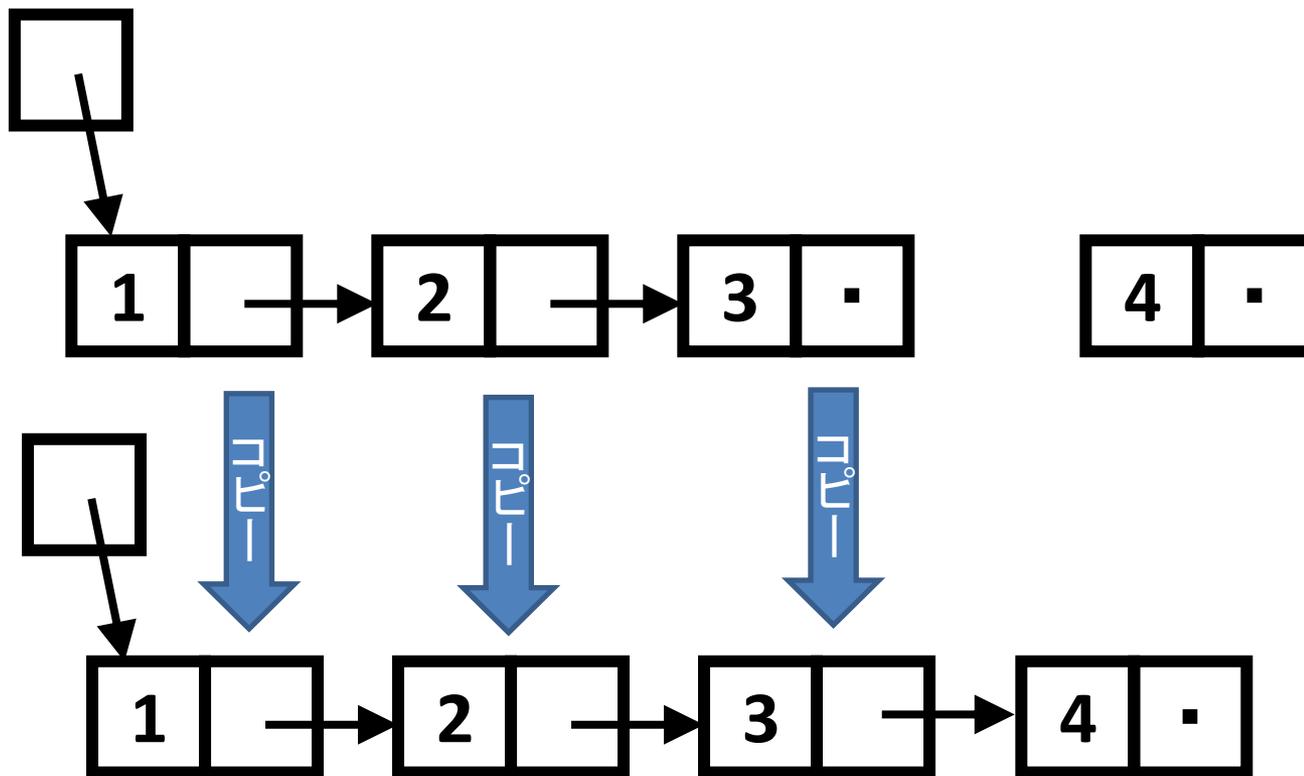
非破壊的キュー

- フィールドの書き換えを使わないキュー
- `pushBack`, `popFront` は「操作後のキュー」を別のオブジェクトを作って返す

```
interface ImuQueue<E>
{
    ImuQueue<E>    pushBack(E e);
    Pair<E,
        ImuQueue<E>> popFront();
}
```

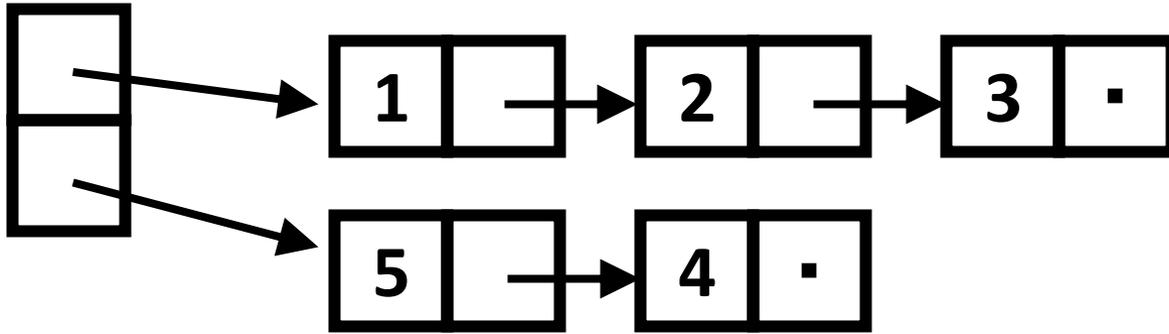
非破壊キュー

- 単純にやると全コピー：計算量 $O(n)$



2 リストキュー

- ちょっと工夫
- キューの後ろの方は逆順で持つ
 - pushBack がリスト先頭への追加なので $O(1)$ に！



```
data Queue a = Q [a] [a] --ここからコードはHaskellです
```

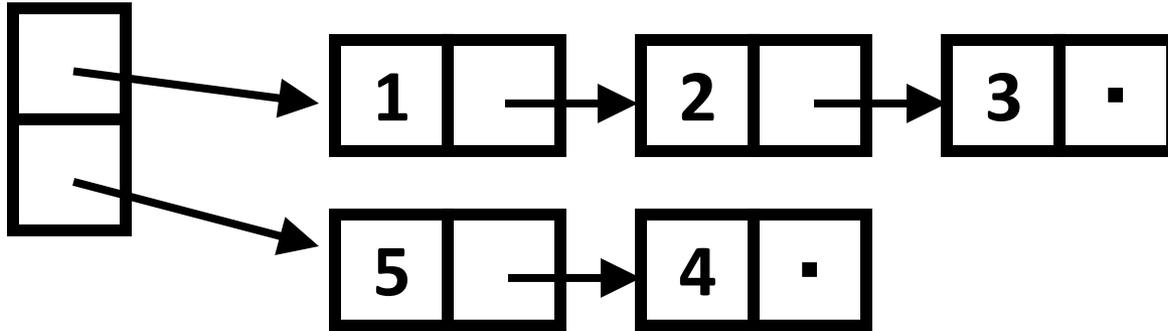
```
pushBack (Q front rear) e = Q front (e:rear)
```

```
popFront (Q [] r) = popFront (Q (reverse r) [])
```

```
popFront (Q (e:f) r) = (e, Q f r)
```

2 リストキューの特徴

- front側とrear側の2つのリストで表現
- $\text{len}(\text{front}) == 0$ になったら rear を reverse



- Persistent である
- 最悪実行時間は、reverseが発生する瞬間 $O(n)$
- でも、償却実行時間は $O(1)$
 - なので、トータルの実行時間的に考えると計算時間は $O(1)$ と思って問題ない！

償却計算量とは？

- pushBack 1 → [] [1]
- pushBack 2 → [] [2,1]
- pushBack 3 → [] [3,2,1]
- popFront → [1,2,3] [] → [2,3] []
- popFront → [3] []
- pushBack 4 → [3] [4]
- popFront → [] [4]
- popFront → [4] [] → [] []

操作列全体でコストを平均化して見たときの計算量

reverseは「たまにしか」起きない

時間 t かかるreverseが発生する前に、必ず t 回 pushBack している

償却計算量とは？

時間 t かかるreverseが発生する前に、必ず t 回 pushBack している

現実の計算量

pushBack 1
popFront(軽) 1
popFront(重) $t+1$

分担をごまかした計算量

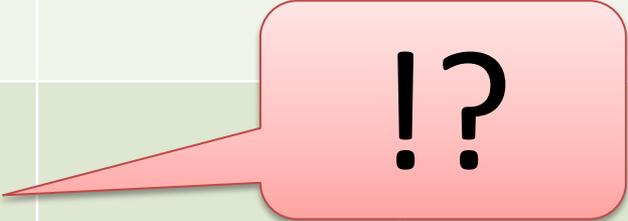
pushBack 2
popFront(軽) 1
popFront(重) 1

• pushBack 1	→ [] [1]	1	2
• pushBack 2	→ [] [2,1]	1	2
• pushBack 3	→ [] [3,2,1]	1	2
• popFront	→ [1,2,3] [] → [2,3] []	3+1	1
• popFront	→ [3] []	1	1
• pushBack 4	→ [3] [4]	1	2
• popFront	→ [] [4]	1	1
• popFront	→ [4] [] → [] []	1+1	1
• 合計		12	12

こう思えば
全部 $O(1)$ だし
トータル計算量も
変わらないので
問題ない！

計算量

		(比較対象) 破壊的	2リスト	銀行家	実時間
儂	A	$O(1)$	$O(1)$		
	W	$O(1)$	$O(n)$		
永	A	n/a	$O(n)$		
	W	n/a	$O(n)$		



!?



銀行家キュー

2 リストキューは本当に

- Persistent と言えるのか???
- Persistent なら、同じバージョンを取っておいて何回も使えるはず

```
let q = loadSomeQueue () in
  ... (doHoge q) ... (doFuga q) ...
  (doPiyo q) ... (doHige q) ...
```

破滅的な例

- reverseが起きる寸前のキューを何回も使う

```
let q = needReverseQueue () in
  ... (popFront q) ... (popFront q) ...
  (popFront q) ... (popFront q) ...
```

ごまかしきれてない

- reverseが起きる寸前のキューを何回も使う

```
let q = pushFront (pushFront (pushFront
    (Queue [] []) 1) 2) 3
in ... (popFront q) ... (popFront q) ...
    (popFront q) ... (popFront q) ...
```

実際の計算時間は
 $1*3+4*4 = 19$!

計算時間は $2*3+4 = 10$ です !

現実の計算量

pushBack	1
popFront(軽)	1
popFront(重)	1+t

分担をごまかした計算量

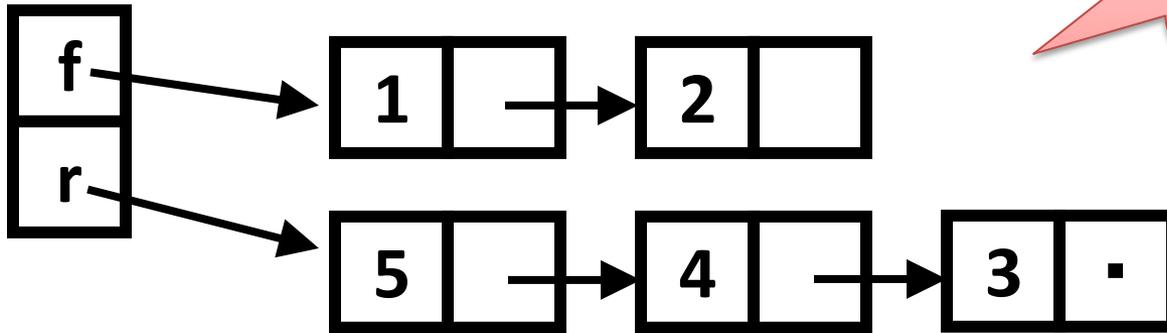
pushBack	2
popFront(軽)	1
popFront(重)	1

どうしましょう

- Persistent な使い方（同じバージョンを何回も使い回す）をしても償却計算量を $O(1)$ にするには？

さらなる工夫

- ~~• $\text{len}(\text{front}) == 0$ になったら reverse~~
- $\text{len}(\text{front}) + 1 == \text{len}(\text{rear})$ になったら
遅延評価で reverse



frontの方が
短くなったら
早めのreverse

```
data Queue a = Q [a] Int [a] Int
```

```
pushBack(Q f fl r rl) e = chk (Q f fl (e:r) (rl+1))  
popFront(Q (e:f) fl r rl) = (e, chk (Q f (fl-1) r rl))
```

さらなる工夫

- $\text{len}(\text{front})+1 == \text{len}(\text{rear})$ になったら
*遅延評価*でreverse

```
data Queue a = Q [a] Int [a] Int
```

```
pushBack(Q f fl r rl) e = chk (Q f fl (e:r) (rl+1))
```

```
popFront(Q (e:f) fl r rl) = (e, chk (Q f (fl-1) r rl))
```

```
chk (Q f fl r rl) =
```

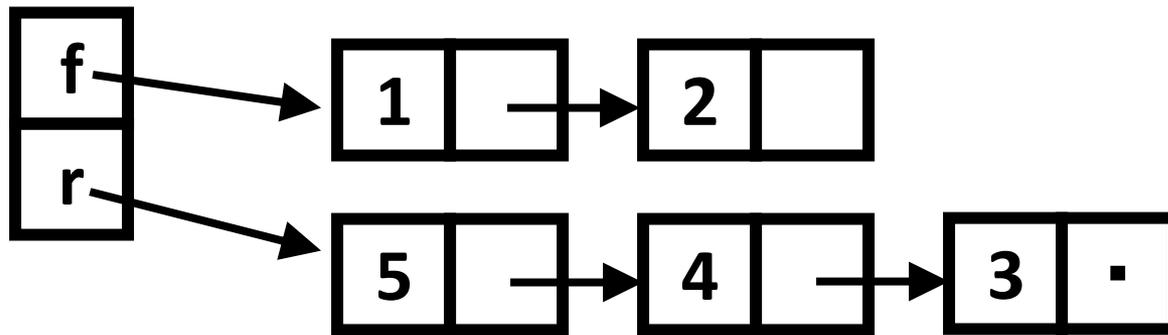
```
  if fl+1 == rl then (Q (f++reverse r) (fl+rl) [] 0)
```

```
    else (Q f fl r rl)
```

Haskellなので
デフォルト遅延

特徴

- front側とrear側の2つのリストで表現
 - $\text{len}(\text{front})+1 == \text{len}(\text{rear})$ になったら遅延 reverse



- Persistent である
- 最悪実行時間は、reverseが発生するとき $O(n)$
- 償却実行時間は (persistentな使い方でも) $O(1)$

計算量の見積もり方

積み立て金メソッド

「時間 t かかるreverseの前に必ず t 回pushBackしてる」

→ 「pushBackのコストを2にして、先にreverseの負担の分を払っておけばOK」

から借金メソッドへ

「早めの遅延評価reverseしておけば、値が本当に必要になるまでに時間がある」

→ 「本当に必要になる支払期限までに、 t 回のpopFrontで負担金を用意できれば問題ない」

償却計算量とは？

長さtのreverse結果が必要となるまでにt回はpopFrontするはず

現実の計算量

pushBack 1
popFront(軽) 1
popFront(重) x+1

分担をごまかした計算量

pushBack 1
popFront 2

- pushBack 1 → [] [1] → []r[1] [] 1 1
- pushBack 2 → []r[1] [2] 1 1
- pushBack 3 → []r[1] [3,2] → []r[1]r[3,2] [] 1 1
- popFront → r[1]実行 → r[3,2] [] 1+1 2
- popFront → r[3,2]実行 → [3] [] 2+1 2
- pushBack 4 → [3] [4] 1 1
- popFront → [] [4] → []r[4] [] 1 2
- popFront → r[4]実行 → [] [] 1+1 2
- 合計 12 12

少し大きい例 : pushBack 1~15

- [] [1] → []r[1] []
- []r[1] [2]
- []r[1] [3,2] → []r[1]r[3,2] []
- []r[1]r[3,2] [4]
- []r[1]r[3,2] [5,4]
- []r[1]r[3,2] [6,5,4]
- []r[1]r[3,2] [7,6,5,4] → []r[1]r[3,2]r[7..4] []
- ...
- []r[1]r[3,2]r[7..4] [15..8] → []r[1]r[3,2]r[7..4]r[15..8] []

popFront

- $[] [1] \rightarrow []r[1] []$
- $[]r[1] [3,2] \rightarrow []r[1]r[3,2] []$
- $[]r[1]r[3,2] [7,6,5,4] \rightarrow []r[1]r[3,2]r[7..4] []$
- $[]r[1]r[3,2]r[7..4] [15..8] \rightarrow []r[1]r[3,2]r[7..4]r[15..8] []$
- popFront: $r[1]$ 実行 $\rightarrow r[3,2]r[7..4]r[15..8]$ 1+1
- popFront: $r[3,2]$ 実行 $\rightarrow [3]r[7..4]r[15..8]$ 1+1
- popFront: $r[7..4]r[15..8]$ 1+1
- popFront: $r[7..4]$ 実行 $\rightarrow [5,6,7]r[15..8]$ 1+1
- popFront: $[6,7]r[15..8]$ 1+1
- popFront: $[7]r[15..8]$ 1+1
- popFront: $r[15..8]$ 1+1
- popFront: $r[15..8]$ 実行 $\rightarrow [9..15]$ 1+1

借金返済
間に合ってる

なぜ借金メソッド？

- **積立金**は一度使うとなくなるけど

```
let q = pushFront (pushFront (pushFront  
    (Queue [] []) 1) 2) 3  
in .. (popFront q) ... (popFront q) ...  
    (popFront q) ... (popFront q)
```

3億円貯金

revに
3億円使う

revに3億円使う

revに3億円使う

revに3億円使う

なぜ借金メソッド？

- **借金**は、一度返せば大丈夫！
 - 遅延評価でメモ化されてるから

15億円**借金**

```
let q = []r[1]r[3,2]r[7..4][15..8] []  
in ... (popFront q) ... (popFront q) ...  
      (popFront q) ... (popFront q) ..
```

rev実行
返済

メモ化
されてるので
もうrev不要

メモ化
されてるので
もうrev不要

メモ化
されてるので
もうrev不要

計算量

		(比較対象) 破壊的	2リスト	銀行家	実時間
儂	A	$O(1)$	$O(1)$	$O(1)$	
	W	$O(1)$	$O(n)$	$O(n)$	
永	A	n/a	$O(n)$	$O(1)$	
	W	n/a	$O(n)$	$O(n)$	

※注釈

- 銀行家キューという名前はなんですか
 - 償却計算量の評価の方法として (Functional データ構造に限らず一般の話として)
 - 銀行家 (Banker) の方法
 - 物理学者 (Physicist) の方法
 - の二つがあって、その「銀行家の方法」で設計したキューという意味だそうです。
- 本には両方の手法が紹介されています



実時間キュー

- 償却計算量とはなんだったのか

分担をごまかした計算量

pushBack	2
popFront(軽)	1
popFront(重)	1

こう思えば
全部 $O(1)$ だしトータル計算量も
変わらないので問題ない！

- 仮想的に** 「積立金」 や 「借金」 を
考え **仮想的に** 返済する

仮想世界を現実にする

popFront で、仮想的にではなく
実際に「借金」を返す

=

popFront のたびに、reverse 処理を
実際に「ちよつとずつ実行」する

やりかた

1 : 借金ポインターを追加

(遅延評価サックを指しておく)

```
data Queue a = Q [a] Int [a] Int [a]

pushBack(Q f fl r rl s) e
  = seq chk (Q f fl (e:r) (rl+1) s)
popFront(Q (e:f) fl r rl s)
  = (e, seq chk (Q f (fl-1) r rl s))
```

2 : chk 関数はreverseチェックのついでに
無駄に遅延サックをちょっとづつ実行
(chk自体は遅延しないようにeager実行)

やりかた

2.1 : 借金ポインタに対してパターンマッチ
= consセル 1 個分だけ実行される

```
chk (Q f f1 r r1 (_:s)) = (Q f f1 r r1 s)
chk (Q f f1 r r1 []) =
  -- 実は f1+1 == r1 のときだけこっちに来る
  let ff = rotate f r [] in
    (Q ff (f1+r1) [] 0 ff)
```

2.2 : rotate xs ys zs は xs++rev ys++zs する関数

```
rotate [] (y:_) zs = y : zs
rotate (x:xs) (y:ys) ff =
  x : rotate xs ys (y:zs)
```

「セル1個だけ実行」
しやすいreverse

計算量

		(比較対象) 破壊的	2リスト	銀行家	実時間
儻	A	$O(1)$	$O(1)$	$O(1)$	$O(1)$
	W	$O(1)$	$O(n)$	$O(n)$	$O(1)$
永	A	n/a	$O(n)$	$O(1)$	$O(1)$
	W	n/a	$O(n)$	$O(n)$	$O(1)$



データ構造を
ブートストラップ



多相再帰が



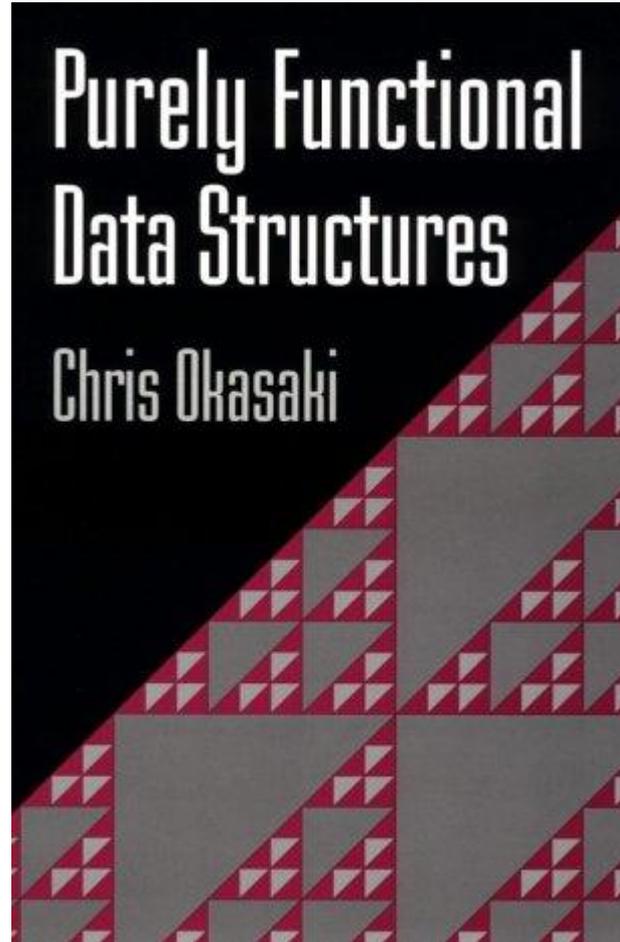
そのほかの話題

目次（紹介した部分）

- 2～3章 :: 簡単な関数型データ構造の紹介
 - 2リストキュー、赤黒木、二項ヒープ、...
- 4章 :: 遅延評価とは
- 5章 :: 償却計算量とは
- 6章 :: 遅延評価を駆使して、永続性と償却計算量を両立（キュー, ヒープ, ...）
- 7章 :: リアルタイム化（キュー, ヒープ, ...）
- 8～11章 :: 関数型データ構造汎用技法集
 - 「 n 進数表記に学ぶ」「ブートストラップ」「再帰スローダウン」

あとは

みんな



を読もう！

